自律的な学びに寄与する Moodle を使った課題提出のデザイン

Designing Task Submissions to Contribute to Self-regulated Learning

竹岡 篤永[*1]
Atsue TAKEOKA[*1]
[*1] 新潟大学 教育・学生支援機構
[*1] The Institute of Education and Student Affairs, Niigata University
Email: atakeoka@kumadai.jp

あらまし：本稿は 2020 年度前期に実施したオンライン授業の課題提出のデザインとその効果について報告する。高専の 1 年生を対象とした学び方を学ぶ授業において、必須の提出課題、任意の提出課題を数多く配し、①授業で取り扱うすべての内容を、②個人のペースで学び、さらに、③自律的に取り組む機会を実現しようとした。提出状況とアンケートの結果、ほぼ意図通りに課題提出がデザインできたことを確認した。

キーワード：インストラクショナルデザイン、ｅラーニング、自己調整学習

1. はじめに

工業高等専門学校（A 高専）の 1 年生を対象とした学び方を学ぶ科目で、授業で取り扱った学び方の理解を定着させ、その方法を実践させるために、課題（「練習問題」と「実践タスク」）を多く組み込んだ授業を実施した。2019 年度までの対面授業では、毎回、紙の練習問題に加え、月単位で 2～4 回の Moodle 実践タスクを課していた。2020 年度前期の前半は、A 高専においてもフルオンライン授業が求められ、課題を全回に導入した。

課題には締め切り日を設け、提出は必須とした。またこの 2 つの課題とは別に、ノート提出とオンラインでのふりかえり（大福帳.js[(1)]を使用）も設けた。これらには締め切り日を設けずに、提出も任意とした。締め切り日を設けた課題は、締め切り日後にも提出の機会を設けた。提出物をこのようにデザインすることで、①授業で取り扱うすべての内容を、②個人のペースで学び、さらに、③自律的に取り組む機会を実現しようとした。本稿では、2020 年度前期における本授業の課題提出のデザインと、そのデザインが上述した意図にどれほど合致したものであったかを報告する。

2. 授業デザイン

2.1 授業の概要

本授業は、A 高専 1 年生の必修授業であり、1 クラス 40 人強の学生が受講している。2020 年度前期には 2 クラスの学生が受講した。授業の目標は、自律的な学び方と協同学習の基本技法の習得であり、教科書として『学習設計マニュアル』[(2)]を採用している。2020 年度前期は、Moodle のオンデマンド型の授業として実施した（図 1）。Step に沿って迷わずに学習できるように構成し、音声解説、読み方のヒント、読んだ部分のノートテイキングと提出、確認クイズなどの方法を用い、教科書を読みながら進めていく形とした[(3)]。

2.2 課題提出のデザイン

全 15 回の授業のうち、中間レポートと最終レポートの 2 回を除く 13 回に課題を設けた。課題は図 1 の Step3 と Step4 に配した。Step3 に「ノート提出」（任意）と「練習問題」（必須で授業 3 日後に提出）とふりかえり（任意）を設けた。Step4 には「実践タスク」（必須で授業 4 日後に提出）を設けた。課題類は、「練習問題」の 1 つを除いてすべて記述式であり、毎回、すべてにコメントを付けて返却した。

図 1　オンラインによる 1 回分の授業

3.　授業の実施

3.1 課題の提出状況

提出必須の「練習問題」と「実践タスク」にはやり直し期間を設けた。前半に 1 回、後半に 1 回、さらにもう 1 回のやり直し期間を設けた。つまり、それぞれの課題について、最初の 1 回を含めれば、合計で 3 回取り組むことができた。

受講者数 82 人（2 クラス）、「練習問題」「実践タスク」数合計 26 個のやり直し状況を整理した。まず、「やり直しをしなかった」「1 回だけやり直した」「2 回やり直した」の 3 つに分けて人数を集計した（図 2）。それぞれ、14 人、50 人、18 人であった。それぞれの未提出数も図 2 に記載した。やり直しの回数が増えるほど、未提出の割合も高かった。全体としては、1 回目のやり直しの個数が多いほど、2 回目のやり直し個数が多く、かつ、未提出数も多かった。

3.2 任意提出物の提出状況

任意提出である「ノート提出」と「ふりかえり」の提出状況を図 3 に示す。

「ノート提出」は、3 回目までを必須活動とし、以降任意とした。「ふりかえり」については、特に何も示さなかった。「ノート提出」は、第 4 回に（任意）と表示してから提出数はそれまでの半数程度になった。第 9 回と第 15 回はレポートの回であったため、「ノート提出」は設けなかった。「ふりかえり」は、毎回平均 71.7 人（87.1%）が書いた。15 回すべて書いた人は 36 人（43.9%）、14 回書いた人が 17 人（20.7%）、13 回書いた人が 7 人（8.5%）であった。

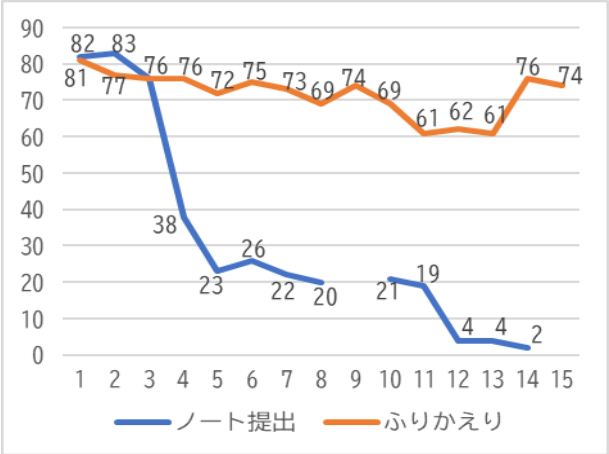

図３　任意提出課題の提出状況

4.　考察とまとめ

提出必須の提出状況を見てみると、課題の数が 26 と多くても、2 回程度のやり直しの機会を設ければ 8 割程度が漏れなく提出できた。2 回のやり直しの機会を設けても、やり直しの個数が多く、かつ、未提出課題が発生してしまった学生については、さらに手厚い足場かけが必要だろう。もう少し短いスパンでやり直しをさせると積み残しを減らすことができ、未提出を減らすことにつながりそうである。

任意の「ふりかえり」と「ノート提出」は、自律的な学びの機会である。アンケートによると約 71% の学生がコメントを読んだと回答したことより、コメントが提出の励みとなった可能性がある。

アンケートの自由記述項目へ回答した学生のうち、74.3%が「自分のペースで進められたこと」と書いた。締め切った後にやり直しを設けることで、多くの学生が授業で取り扱った内容を自分のペースで学び、また、コメント返却が自律的に取り組むことに寄与した可能性のあることが示唆された。

参考文献

(1) 大福帳.js：https://goose.cite.tohoku.ac.jp/daifukujs/welcome（2021.6.8 アクセス）
(2) 鈴木克明，美馬のゆり編著：“学習設計マニュアル”，北大路書房，京都（2018）
(3) 竹岡篤永:“学び方を学ぶ授業における教科書を読むためのオンライン授業の開発”，日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集, pp.369-370(2021)

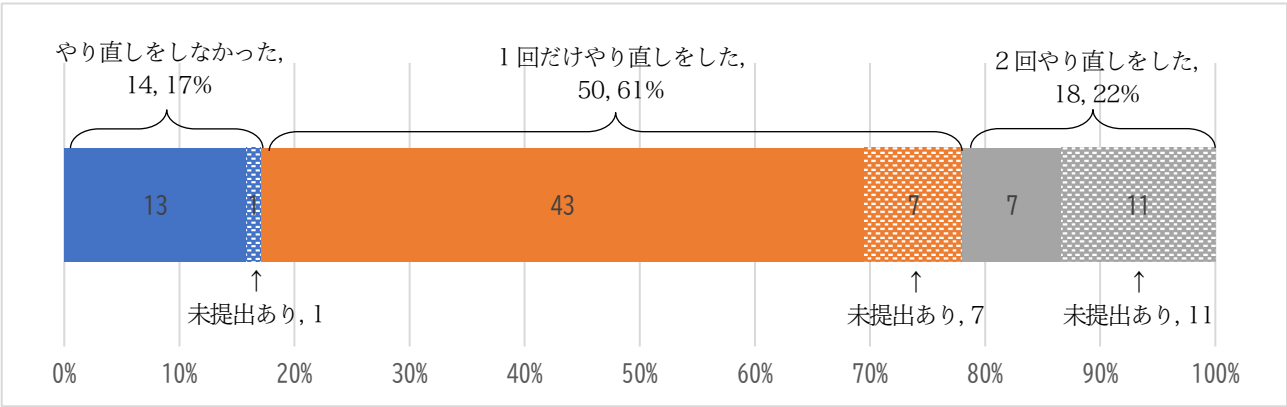

図２　課題のやり直し回数と未提出数